

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 3 月 1 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/1 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	17.5	107.0 kPa abs	A系： 0.33 vol %
		給水系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.35 vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.4 m <sup>3</sup> /h	30.9	7.15 kPa g	A系： 0.03 vol %
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレ系：約 3.5 m <sup>3</sup> /h	30.3	0.27 kPa g	A系： 0.16 vol %
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.17 vol %

\* 1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/3/1 3月分の原子炉の冷却に必要な注水量について、1号機 2.6 m<sup>3</sup>/h、2号機 3.6 m<sup>3</sup>/h、3号機 3.5 m<sup>3</sup>/h と定め、運用を開始。

[2号機]・H25/3/10～3/16 [3号機]・H25/3/3～3/9

原子炉注水設備における給水系の信頼性向上工事に伴う事前確認について、原子炉等の冷却状態に有意な変動のないことを確認できたことから、同様の原子炉注水量変更を行い、給水系の信頼性向上工事を実施予定。

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/1 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	10.5
2号機	循環冷却システム	停止中	12.3
3号機	循環冷却システム	運転中	9.7
4号機	循環冷却システム	運転中	20

\* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドراجンの注入を適宜実施。

[2号機]・H25/3/1 9:50 使用済燃料プール代替冷却系を当該系の弁点検のため停止。その後作業が終了したことから、12:42、使用済燃料プール代替冷却系を起動。運転状態に異常なし。また、使用済燃料プール水温度は冷却停止時の12.3 から12.5 まで上昇したが、運転上の制限値65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度管理上は問題なし。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [ 雑固体廃棄物減容 処理建屋 ( 高温焼却炉建屋 ) ]	2/28 14:02 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系\*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

\*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

#### < 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (3/1 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/2/28 8:00 電源工事に伴い、第二セシウム吸着装置(サリー)を停止。16:45、同装置を起動。17:30、定常流量に到達。

#### < 5 . その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/2/23 12:12 頃 協力企業作業員が2号機タービン建屋1階ヒータールーム中央付近で水溜まりを発見。水溜まりの範囲は約5m×約1m×約1mm。当該箇所の天井部分の数箇所から、5秒に1滴程度の水の滴下があること、および水溜まり周辺にある配管や仮設ホースからの漏れいはないことを確認。当該水溜まりから採取した水を分析した結果、セシウム134が $1.3 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $2.5 \times 10^2 \text{Bq/cm}^3$ 、床面の汚染状況を確認した結果、セシウム134が $1.2 \times 10^2 \text{Bq/cm}^2$ 、セシウム137が $2.1 \times 10^2 \text{Bq/cm}^2$ 、当該箇所の雰囲気線量率を測定した結果、ガンマ・ベータ線が0.7mSv/h、ガンマ線が0.7mSv/h。また、当該箇所の天井部分の上部に該当する2号機タービン建屋2階にあるタービン排気フィルタ室に水溜まり(約15m×約11m×約10mm)があることを確認。

H25/2/25 2階タービン排気フィルタ室の水溜まりは、天井から滴下した水によるものであることを確認。

H25/2/26 2階タービン排気フィルタ室に天井から滴下している水を分析したところ、セシウム134が $1.1 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $1.9 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ であったことから、滴下した水は雨水と推定。現場を確認したところ、1階ヒータールーム床面への滴下(5秒に1滴)と2階タービン排気フィルタ室床面への滴下(2~3秒に1滴)が継続していることを確認。

H25/3/1 その後、2階タービン排気フィルタ室の床面及び1階ヒータールーム床面へ滴下している水(1階ヒータールーム天井滴水)の核種分析を行った結果、2階タービン排気フィルタ室床面の水溜まりは、セシウム134が $2.7 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $5.1 \times 10^0 \text{Bq/cm}^3$ 、1階ヒータールーム天井滴水は、セシウム134が $2.8 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $6.5 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ 。また、現場確認の結果、2階タービン排気フィルタ室の他に浸入する源となりそうな溜まり水がないことを確認したことから、1階ヒータールーム中央付近で発見された水溜まりは2階タービン排気フィルタ室天井からの滴水と同様で雨水であると判断。

< 参考: 2号機タービン建屋地下溜まり水の核種分析結果(H25/1/11 採取) >

セシウム134が $1.8 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$ 、セシウム137が $3.4 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$

・H25/3/1 8:50 頃 福島第一原子力発電所構内のふれあい交差点付近において、ダンプ車両運転中の作業員が体調不良を訴えたとの連絡を受けたことから、5・6号機緊急医療室にて医師の診察を受けたところ緊急搬送の必要があると判断。9:30 に急患移送車にて福島第一原子力発電所を出発し、9:53 に富岡消防署で救急車に乗せ替え、いわき市立総合磐城共立病院へ搬送。11:15、いわき市立総合磐城共立病院に到着し診断を受け、2~3日間経過観察のために入院することとなった。なお、当該作業員に身体汚染はなし。

・H25/3/4 2号機格納容器内に常設監視計器(温度計・水位計)を設置し、格納容器内部調査(CRD交換レールおよびペダスタル開口部近傍)・滞留水サンプリングを今後実施するため、既設の格納容器雰囲気温度計(平成24年9月設置済)を撤去する予定。

・H25/3/4~3/8 待機中(動作可能状態)の窒素供給装置について、本格点検を実施予定。

以上